

資料5：沼津兵学校における福井藩員外生の実態

※熊澤恵里子著「他国修行—福井藩教育改革の軌跡—」(『福井県文書館研究紀要』(9)1・28 2012年03月)の添付資料表2のコピー。

※元史料は、熊澤恵理子著『幕末維新时期における教育の近代化に関する研究』(2007年風間書院刊)のp145・146掲載の資料。

表2 福井藩員外生

氏名	年齢	家督者の関係・家督者名等	留学期間	前職	遊学中の経歴・褒賞	遊学後の主な経歴	出典
永見 裕	33	弟・要人(300石・門警衛)	M2.10~ M3.9	兵学取調方(5口)	修業生徒寮長・藩手当1ヵ年50両	西周私塾育英舎、兵部省出仕、山形県小学校教員、学力検定掛、酒田高等尋常小学校長	①②
本多勝三郎(貴一)	20	本人・1200石(分家)(父修理・高知席2800石・元家老)	M2.10~ M3.5	修業隊		慶永思召により東京でフルベッキに師事、その後神戸へ	③⑥
本多英雄(範)	20	本人・1975石・明新館生	M2.10~ M2.11	生長、修業隊	M2.11 掃藩、12被免	東京へ学問修行	③⑥
松原 平(秀成)	18	仲・十郎(300石・民政寮山林方・小隊長)	M2.10~ M3.10		学業格別20両・第6期資業生	育英舎、新潟英学校教員、横浜へラルド新聞社社員、福井中学英語教員、私塾研成義塾(英教漢)、福岡師範学校教員	③⑥⑦ ⑧⑨⑬
杉田悦三郎※	21	本人・米316.399俵	M2.11~ M4	修業隊	M3.11 一旦掃藩・第7期資業生		③⑦⑩
市村深造※	19	次男・市十郎(350石・学校幹事、軍政局幹事、軍監) 卒族	M3.10? ~M4	修業隊		東京へ洋学修行	②⑩
若代漣蔵(佐久間正)	22	仲・老之助(米46.426俵、元武生家来<70石・引渡席)	M2.10~ M4		学業格別20両、M3.11 一旦掃藩進業二付金200疋、第6期資業生	明新館洋学四等教授、准三等教授、福井中学英語教員、同校長心得兼務、文官普通試験委員、県教育会理事、第五十七銀行頭取、越前笏谷石材株式会社社長	②⑥⑪ ⑫⑬
津田捨五郎(東)	20	弟・達太郎(230石・後拒)	M2.10~ M3.1		学業格別20両・第6期資業生	育英舎入塾	②⑥⑦
中根鳥介(西一)	16	弟・牛介(700石・砲隊長)(父雪江・寄合席・元側用人)	M2.10~ M3.10			育英舎入塾、その後北海道へ	②⑭
松平八十一(正秀)	22	弟・源太郎(寄合席500石小参事・民政寮幹事)	M2.10~ M3.10	修業隊	学業格別20両	育英舎入塾	②⑥⑦
明石源蔵	18	弟・雄太郎(100石・兵学取調方歩兵佐教)	M2.10~ M3.10	修業隊・生兵教授方手伝		育英舎入塾、明新館洋学教授方手伝、福井中学英語教員	②⑥⑬
木清貫人	22	弟・青木威一(米82.121俵、武学所少副導、兵学取調方)	M2.10~ M2.11		M2.11 掃藩、12被免	明新館員外洋学中進業生、通訳、米国留学	②⑦⑮
加賀升談※			?~M4				⑩
糟谷素且	21		M2.10~?				⑥
坂野秀三郎※	25	仲・弥藤次(新番格以下・小銃隊)	M2.10~ M4	外塾師手伝、洋学所御雇	格別勅励25両 M3.11 一旦掃藩進業二付300疋、第5期資業生	明新館洋学四等教授、その後名古屋で弁護士	⑤⑥⑦ ⑩
斎藤修一郎	16	本人・米30.182俵・卒族(武生本多興之輔元家来)	M3.2? ~M3.10			育英舎入塾、大学南校貢進生、ハーバード大学官費留学、外務省勤務、農商務次官、朝鮮国政府農商務顧問(正四位)	④②⑯

年齢・家督は明治3年現在。井は資料④によるもので、明治2年11月頃か。※は資料により氏名が異なるもの。

杉田悦三郎、市村深造、坂野秀太郎、加賀野升談(砲兵訓練)。

出典：①「永見裕履歴」(西周文書)、②「子弟輩」一一三、③「士族」一一七、④「元陪臣」、⑤「新番格以下増補雑輩」(以上、松平文庫福井藩史料)、⑥「福井藩留學生名簿」(『西周全集』第三卷)⑦「沼津兵学校沿革」(『同方会誌』42号)、⑧「福井新聞」1884年9月10日、12月10日、⑨「子供勤書」(熊取正光氏所蔵)、⑩「家譜」235(越葵文庫、福井市立郷土博物館保管)、⑪『武生郷友会誌』29号(武生市立図書館蔵)、⑫『武生市史』資料編、⑬「旧職員表」(『創立50周年記念録』福井県立福井中学校、1931年)、⑭「家系図」(中根隆氏所蔵)、⑮前掲「家譜」236、⑯『斎藤修一郎先生懐旧談』(武生郷友会、1917年、早稲田大学中央図書館所蔵)